上侍塚古墳の位置と大きさ

鉄製の武器と武具

粘土の説明？

管玉と腕輪形石製品

不明鉄製品

鉄斧

鏡

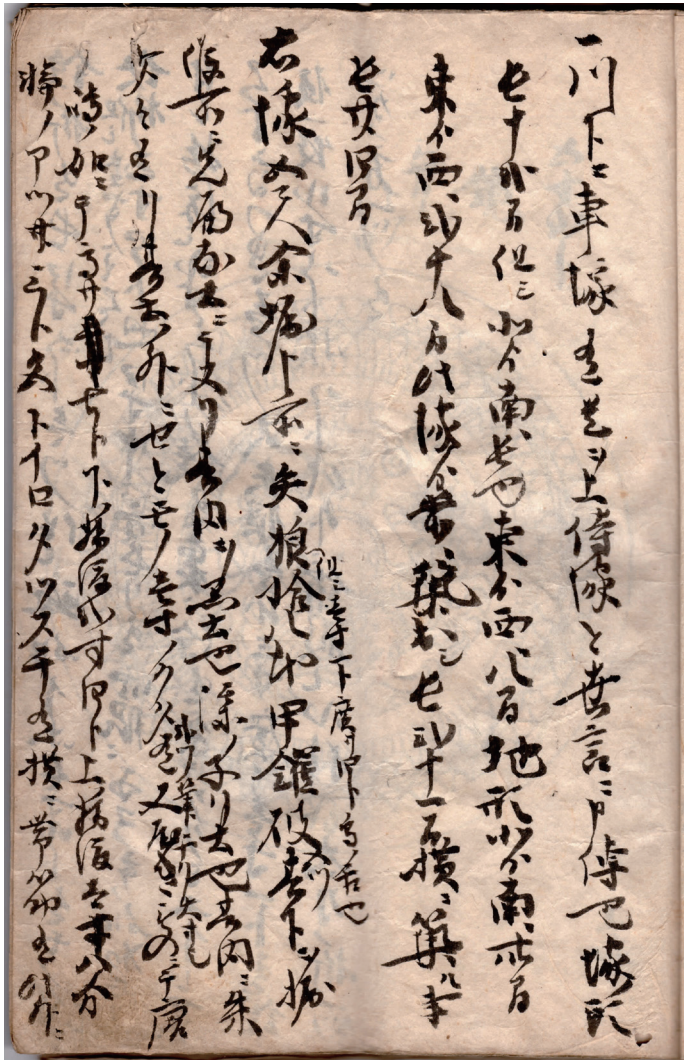
土師器の高杯

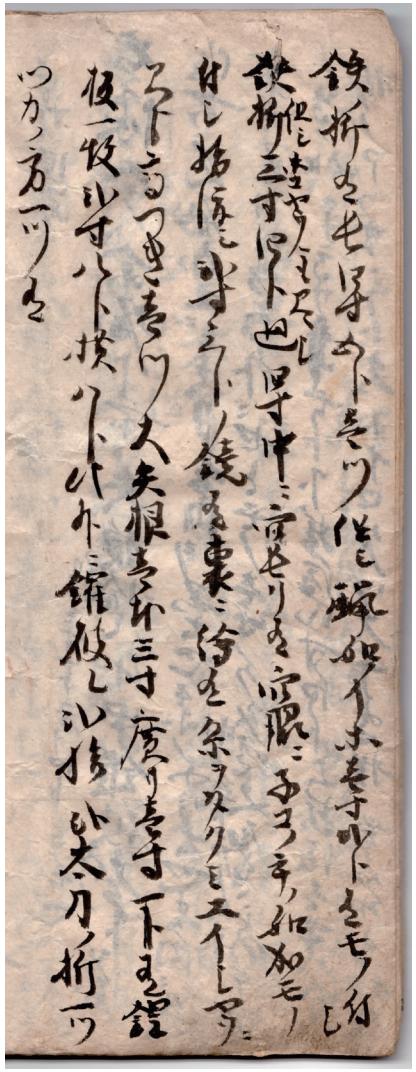
鉄製の武器と武具

一（那珂川の）川下に車塚があり、これを上侍塚と世間では申し伝えている。塚の頂上は長さ十二間（22メートル）で、ただし北から南方向に長い。東から西方向へは八間（14メートル）。地形は北から南へ三十間（後方部長さ54メートル）、東から西へ二十八間（後方部幅50メートル）、この塚から前へ出るように築いた長さが二十一間（くびれ部の長さ38メートル）、横方向に築いた長さが二十四間（前方部幅43メートル）。

右の塚を五尺（1・5メートル）ほど掘りましたところに、やじり十八本ただし一寸一分広さ四分（長さ3・3センチ幅1・2センチの鏃）で鳥の舌の形をしている。かぶとによろいの破片が五点。その下を掘りました先のところはヘナ土（意味不明）で塗り、その内側は墨があって、漆を練った土である。その中に朱（赤色顔料）が少々ある。その土のほかに瀬戸物（陶器に似た材質）の一寸の管が二つあって筆の軸ほどの太さである（長さ3センチの管玉が2点）。また焼き物（に似た材質）で縞模様のある高さ七分（2センチ）、下部で径一寸四分（7センチ）、上部で径一寸八分（5センチ）、輪の厚さ三分（1センチ）、色は砥石のようで、縦方向の筋と横方向の筋がある（腕輪形石製品）。このほかに鉄の折れたものがあって、長さ四寸五分（14センチ）の破片1点、ただしロウのようなイホ（意味不詳）で、大きさ一寸二分（4センチ）のものがついている。

鉄の折れたものがあって、ただしホコ（ヤリ）のようにも見える、三寸四分（長さ10センチ）周囲四寸（12センチ）で中に長い穴があいていて、穴の脇に猫の手のような形のものがついている（鉄斧）。直径二寸三分（7センチ）の鏡があって、糸を上手に撚ったように見える文様の絵が裏面にある。高杯（土師器）1点、大きなやじりが一本あって長さ三寸、広さ一寸一分である（長さ9センチ・幅3センチの大きな鉄鏃）。よろいの板が一枚あって二寸八分横八分（長さ8・5センチ・幅2・4センチ）。この他に鎧の破片が二十二枚、刀の折れたものが一つ、刀のつか（手に持つ部分）の方の破片が一つある。





『湯津神村車塚御修理』p9 p10 上侍塚古墳の発掘調査